
GakuNin RDM 提供者と利用者の対話

学術情報基盤オープンフォーラム

RCOSトラック 4

NII・AXIES-RDM部会合同セッション

2021年7月7日 15:30-17:30

このセッション・質疑応答の進め方

- 発表者以外は、Youtube Live でご視聴いただいております
- 質問・コメントは、sli.do で受け付けます
- 記録の為、録画をしております。

本日の進行

- このセッションの狙い/AXIES-RDM部会の活動について(15分)
 - 青木学聡(名古屋大学)
- GakuNin RDM本格稼働後のNIIからの報告(各10~15分)
 - 平原孝明(国立情報学研究所)
 - 下山武司(国立情報学研究所)
- GakuNin RDMをどのように受け入れた(る)か : 大学からの報告(各15分)
 - 西村浩二(広島大学)
 - 松原茂樹(名古屋大学)
 - 高田良宏(金沢大学)
- パネルディスカッション: GakuNin RDM 提供者と利用者の対話
- (Voice to Voice 意見交換会: AXIES-RDM部会主催)

AXIES-RDM部会ページ <https://rdm.axies.jp/> もご覧ください

2020-2021年度の AXIES-RDM部会

AXIES-RDM部会のミッション

- 2017年設立当初「RDMの為の情報基盤」を中心とした議論
- 「How?」の前に「Why?」
 - 「組織的RDMの為のフレームワーク」
 - 情報システム
 - 情報サービス
 - 組織体制・組織間連携
 - ポリシーメイキング
- 各種成果物
 - 2019.5 「学術機関における研究データ管理に関する提言」
 - 2020.1 「大学における研究データ管理に関するアンケート (雛形)」を公開

研究データマネジメント部会： 2020年度活動(その他)

- 「大学における研究データポリシー作成のためのガイドライン」の草案
 - データポリシー作成時の体制構築、検討内容のまとめ
 - 2021年7月に公開
- JPCOAR(オープンアクセスリポジトリ推進協議会)研究データ作業部会との協力体制
 - RDM事例形成プロジェクト、並びに機関関係者へのアンケートに協力
 - AXIES-JPCOAR合同ワークショップ開催
 - 「連絡会」を設置し今後も協力関係を維持

研究データマネジメント部会： 2020年度活動(主催・共催会議)

- 学術基盤オープンフォーラム(2020.6.8)
「学術機関における研究データ管理フレームワーク」
- AXIES年次大会(2020.12.9)
企画セッション「大学におけるRDM支援体制の構築」
- AXIES-JPCOAR研究データワークショップ(2021.2.19)
 - CA-E で実施報告 <https://current.ndl.go.jp/e2392>

いずれも40～60名程度の参加

大学における研究データポリシー 策定のためのガイドライン

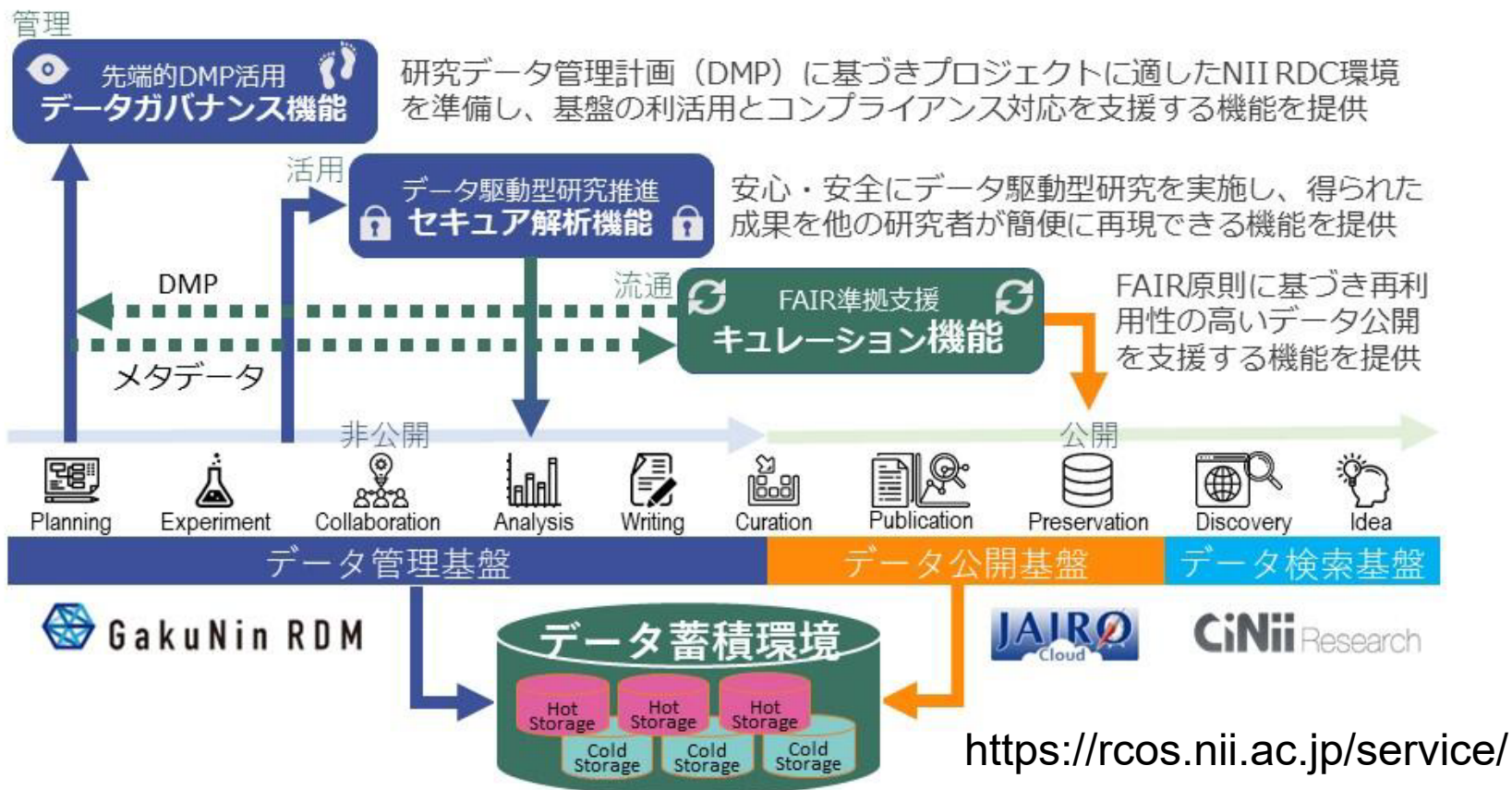
- 2021年7月1日Webにて公開
<https://rdm.axies.jp/sig/70/>
 - 冊子体も作成、AXIES、JPCOAR参加機関等に配布予定
- 「雛形」ではなく、組織的RDMの「学内合意形成」の指南書
- 付録として「WG座談会」
 - ガイドライン策定をはじめ、大学内でのRDM環境整備に対する実体験集
- 「研究データポリシー策定WS」を、AXIES-JPCOAR連絡会で計画

RDM事例形成プロジェクト (JPCOARとの共同)

- 「提言」にあった組織内役割分担を基に、各大学・研究機関(約15機関)でのRDM対応状況をヒヤリング(2019)
- 図書館、情報基盤、研究推進等、RDM関係部署に対する横断的アンケート(2020)
- 再度ヒヤリング対象に調査、RDM支援組織、情報基盤等への変化を収集(2021)

組織的RDMの「今」

「NII Research Data Cloud」運用開始(2021.2 ~)



組織的RDMの技術的側面

- 永続的(デジタル)識別子の普及(Persistent Identifier)
論文・データ: DOI 人物: ORCID 組織: RoR 研究助成金: FundRef
研究資料: RRID, IGSN 研究・観測機器: PIDINST ...
- データや人物、組織がこれらPIDと結びつき、流通
→ 研究者(大学)の役割は、PIDにつながる実体を確保し、プレゼンスを高める
- 特に研究データについては参照可能性→FAIR原則
F(indable), A(ccessible), I(nteroperable), R(eusable)
- 更に実体を預かるメディアへの信頼性→TRUST原則
T(ransparency), R(esponsibility), U(ser Focus), S(ustainability),
T(echnology)
- ようやく「大学ICT」要求の出番
ただ、「持続するサービスモデル」への道のりは険しい

RDM部会の2021年度テーマを、「大学が提供するRDM情報サービス」にできるか？

セッションの狙い

- GakuNin RDM(GRDM)本格稼働開始(2021.2)
- GakuNin RDM (+NIIの諸サービス)はどのように、現場に導入・普及していくか？
 - 研究者、研究室、図書館・・・
- 導入・普及のための課題は？
 - システム (GRDMの機能)面からのアプローチ
 - サービス (サポート・ユーザ拡大)面からのアプローチ

このセッション・質疑応答の進め方

- 発表者以外は、Youtube Live でご視聴いただいております
- 質問・コメントは、sli.do で受け付けます
- 記録の為、録画をしております。

事例発表

- GakuNin RDM本格稼働後のNIIからの報告
(各10~15分)
 - 平原孝明(国立情報学研究所)
 - 下山武司(国立情報学研究所)
- GakuNin RDMをどのように受け入れた(る)か:
大学からの報告(各15分)
 - 西村浩二(広島大学)
 - 松原茂樹(名古屋大学)
 - 高田良宏(金沢大学)

パネルディスカッション

- Sli.do からの質問ピックアップ
- GRDM 運用者と利用者の対話
 - 双方の思惑の一致とギャップ
 - 双方へのリクエスト
- その他、GRDMに限らず、RDMの為の情報システム・サービスについて

セッションのまとめ

-

Voice to Voice 意見交換会

- AXIES-RDM部会で話し合いたいこと
 - 部会へのリクエスト
 - 部会の年間予定
 - 関係者間での深い話
- 本セッション終了(17:30?)後1時間程度
- AXIES-RDM部会のWebEXミーティング
 -
 - ミーティング番号 (アクセスコード):
 -
 - ミーティングパスワード:
 -